



保全活動のケーススタディー 美しい海づくりプロジェクト（積丹町）

積丹町の概要

人口：約2,500人の高齢化の町  
 主な産業：漁業・農業の一次産業と観光業  
 ニセコ・積丹・小樽海岸公園の景勝地  
 札幌圏から90km、年間100万人の観光客、ダイビングスポット



美しい海づくりプロジェクト

地域づくりの実践ケーススタディー 美しい海づくりプロジェクト（積丹町）

漁業が直面する課題



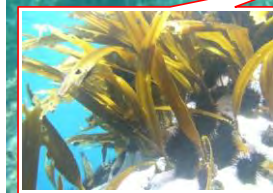
2011 9 29 東京海洋大学実習にて 若手漁師と学生

魚価低迷  
 資源減少  
 磯焼け  
 トド被害  
 密漁被害  
 高齢化と担い手不足

⇒ 漁村の  
 疲弊



美しい海づくりプロジェクト



美しい海づくりプロジェクト

地域づくりの実践ケーススタディー 美しい海づくりプロジェクト（積丹町）

漁師とダイバーの対立と理解



- ✓コミュニケーションの場（地元ショップ）
- ✓価値感の共有（環境保全）
- ✓若手漁業者

→ 米国・美しい海づくり協議会の設置へ



平成21年8月8日 北海道新聞（夕刊1面）

美しい海づくりプロジェクト

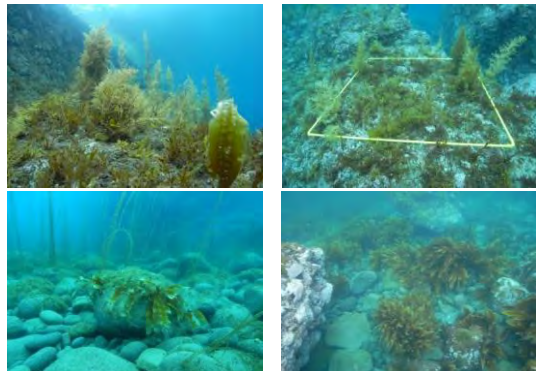
地域づくりの実践ケーススタディー 美しい海づくりプロジェクト（積丹町）

保全活動の運営手順



美しい海づくりプロジェクト

地域づくりの実践ケーススタディー 美しい海づくりプロジェクト（積丹町）



美しい海づくりプロジェクト

地域づくりの実践ケーススタディー 美しい海づくりプロジェクト（積丹町）

顧応的管理を持続的するためには？



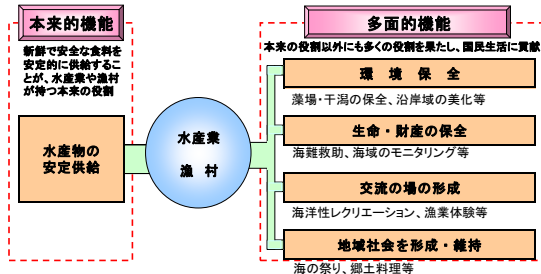
楽しくなければ、みんなで、続けられません！

水産振興のトレンド

■水産業・漁村の機能

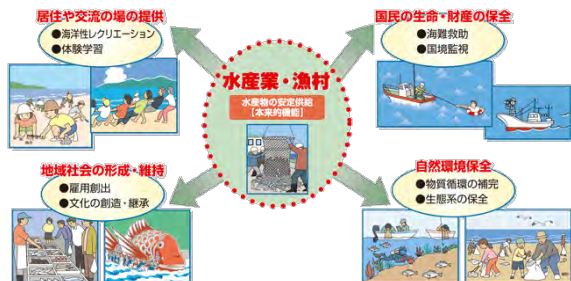
【本来的機能】 新鮮で安全な食料を安定的に供給（水産物の安定供給）  
→資源の増殖、魚価向上（ブランド化）

【多面的機能】 本来的機能以外に水産業・漁村の発揮している機能



水産振興のトレンド

■「本来的機能」+「多面的機能」で水産業・漁村の機能を価値化 → 地域活性化



美しい海づくりプロジェクト

地域づくりの実践ケーススタディー 美しい海づくりプロジェクト（積丹町）

美しい海づくりプロジェクト（日本財団助成事業）



美しい海づくりプロジェクト

地域づくりの実践ケーススタディー 美しい海づくりプロジェクト（積丹町）



調べ学習（積丹の海には何がいるの？）

英国小学校 教員研修

美しい海づくりプロジェクト

④地域づくりの実践ケーススタディー 美しい海づくりプロジェクト（積丹町）



美しい海づくりプロジェクト

地域づくりの実践ケーススタディー 美しい海づくりプロジェクト（積丹町）



教育の場 シャコたん海の学校  
（休暇施設・積丹町研修センターの活用）

北海道大学 東京海洋大学  
北海道教育大学 東海大学  
弘前学院大学  
北海道工・コミュニケーション専門学校  
北海道バイワ/OF-専門学校 など  
2年間で約1,300人が参加

美しい海づくりプロジェクト

地域づくりの実践ケーススタディー 美しい海づくりプロジェクト（積丹町）

ウニむき体験ツアー（水産観光）

ウニが高くて  
仕方ないわ！

500円で海  
が良くなれば  
うれしい！

とにかくウニ  
が美味しい！

楽しく勉強  
になった。子供の  
夏休みの自由研  
究にしよう！

漁師さんの  
苦労が  
わかった

【ウニの流通】  
・ウニ1個200円（浅海部会が供給）  
→ 殻ウニの付加価値化  
・一時蓄用（カゴ）で出荷調整 → 安定供給  
【寄付金】  
・ツアー代金の10%（500円）を保全活動に還元

美しい海づくりプロジェクト

地域づくりの実践ケーススタディー 美しい海づくりプロジェクト（積丹町）



美しい海づくりプロジェクト

地域づくりの実践ケーススタディー 美しい海づくりプロジェクト（積丹町）

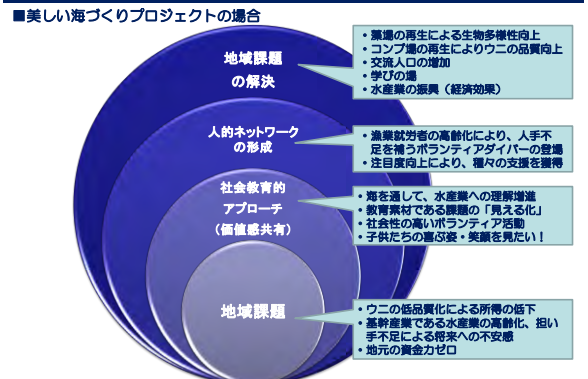
第32回全国豊かな海づくり大会～美ら海沖縄大会～

漁場・環境保全部門  
大会会長賞

賞状

北海道 美しい海づくり協議会  
貴殿は今年にわたり漁業環境  
保全に尽力し、漁業の発展な  
らびに地域の保全に寄する  
ところ、ことに大きなものが  
ありました。これを賞します。  
平成32年7月18日  
全国豊かな海づくり大会  
委員長 横路 孝弘

地域協働へのコミュニティデザイン



## 事例から見えるポイント

### 【手法】環境と学びを大切に体験

- 海の環境に市民が関わる機会は少ない 環境意識の高まり

### 【動機付け】誰のために？ 何のために？ を明確に

- X漁場を守りたい、O地域の宝である美しい海を守りたい「地域資源」
- 価値観の共有、情報の共有

### 【ボランティア】単なる労働力ではない！

- 良き理解者であり、情報の発信者となり得る
- ただし、各個人の多様な（お金ではない）満足感を与え続けることが必要
- 手間と心配り、大切なゲストとしてもてなす意識を！

### 【人材】地域の特性に合わせたコーディネートと調整

- ファシリテーター的キーマンの存在（プロジェクト促進型）
- 関係機関の横断的な関係づくり

## 課題・問題点

### 【労働力不足】潜水しなければウニをきれいに効率よく除去できない

- 若手漁業者への潜水技術普及、徹底した安全と快適性の向上

### 【資金の不足】民間助成金、CSR、ソーシャルビジネス

- 保全活動の付加価値化による価値の向上で、様々な資金調達を

### 【資源の活用】除去ウニ、藻場の貨幣価値化

- ウニの肥育、ウニの安定供給（畜用）、地産地消

### 【六次産業化】従来型の産業形態から、新しい枠組みへ

- 広義の観光的なアプローチ（着地型観光）
- 環境マーケティング、ストーリーマーケティング
- 既存技術（事業）の連携による新たな価値観の創出

### 【規制】漁業、港湾、運送など関連法規に注意！

